

第4回アジア未来会議SGRAセッション
(フスレグループ)

現代モンゴル地域における社会変容

はじめに

- 中国においては、牧畜業生産の90%以上が内モンゴル、新疆、青海、チベットなどの少数民族地域に集中し、牧畜業に従事する人口の90%はモンゴル人、チベット人、カザフ人、キルギス人、タジク人などの少数民族である。
- 牧畜業は各少数民族牧民の根本的、基本的な生業であり、牧民の生活やその地域社会の発展は牧畜業の発展にかかわる。さらに、牧畜業は農業生産の発展および国民生活の向上と密接に関連し、国家経済においても重要な地位を占める。
- 内モンゴルの草原面積は7,880万ヘクタールで、全国の草原総面積の22%を占め、中国の最も重要な牧畜業基地であり、牧畜業経済は内モンゴル自治区において極めて重要な位置を占めている。

- ▶ シルクロードの要衝をつなぐ河西回廊には、多様な生態系と伝統文化が豊富に残されている。それは、そこに生存する少数民族の暮らすによって支えられてきた。
- ▶ しかし、自然、文化と調和する彼らの営みは、市場経済や移住政策などにより大きく変化してきた。中国経済の急成長における激流の中で少数民族は、今後、どのようにすれば自らの伝統文化を守りながら暮らしていけるのかは、重要な課題であると考えている。



1. はじめに

各民族の伝統文化と関係するスポーツ祭や文化祭、ファッションコンテストなどのイベント

漢民族の指導者、幹部までがモンゴル系サブグループの衣装を身につける

民族衣装は、もはや現代モードに組み込まれている⇒

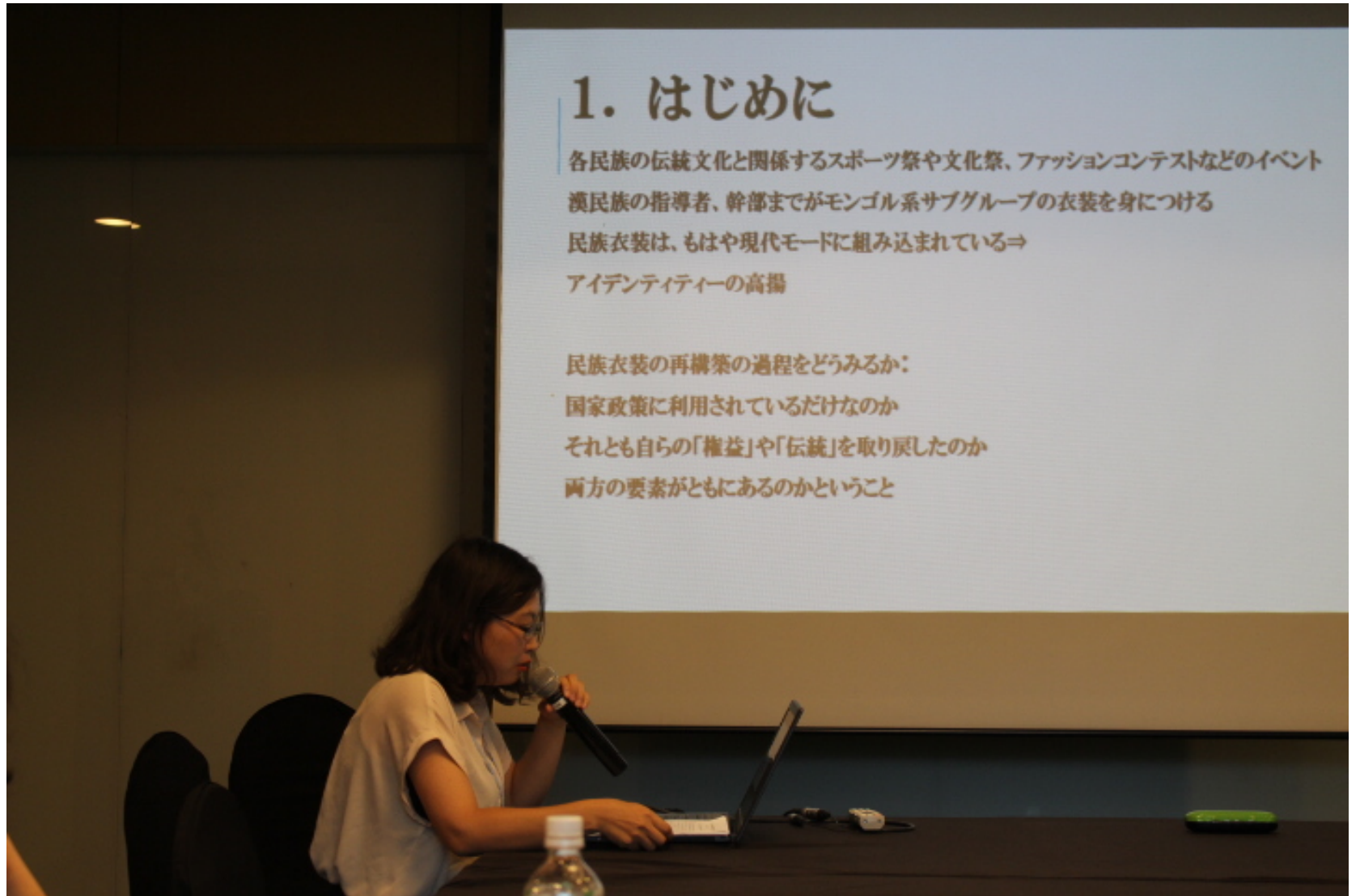
アイデンティティーの高揚

民族衣装の再構築の過程をどうみるか：

国家政策に利用されているだけなのか

それとも自らの「権益」や「伝統」を取り戻したのか

両方の要素がともにあるのかということ



はじめに

2011年2月から、内モンゴル地域で土地・生態環境に関して農・牧民と地方政府あいだで、多数のもめごとや紛争が起り、2018年の夏までにはまだ続けられている。場に起こっているこれらのもめごとや紛争を分析対象として、現代中国の周辺に暮らす少数民族、とくにモンゴル人社会の現状に鑑み、少数民族政策と地方経済との関係、地方政府と農・牧民の個人的利益との対立している現状を取り上げる。

Ⅰ：政治的背景：省院

Ⅱ：内モンゴルへの経済政策の流れ

- 中国中央政府は1978年頃から改革開放政策
- 1982年12月30日、農・牧業における土地承包合同条例
- 2002年12月に「中華人民共和國草原法」が改訂され、2003年1月1日から実施。この法律はこの「草原法」の第47条に基づいて、2003年の春から内モンゴル自治州に「禁牧」政策を奨励した。牧畜業は禁止、農業は許可
- 2006年10月1日、「中華人民共和國農村土地承包法」の実施
- 2011年2月に中央経済工作会議した「第十二次五年計画」＝工業化、都市化と農村近代化することを求め、工業が農業を引き上げ、都市が農村を支持する方針を打ち立て、「近代的農業へ発展することも加速する」



